

12.5 金大中氏への死刑阻止全学集会へ

金大中氏らを殺すな！光州を裁かせるな！緊急行動実行委

金大中氏らに対する韓国軍事法廷によるオミニ裁判決が迫っている。マスコミは、十月五日にも判決が下されるだろうと報じている。伝え聞くと、この判決は、全三機は金大中氏に対して再び死刑判決を下す。今年中に刑の執行を行なうことを決めたといふ。

また金大中氏らの裁判と同時に、十月二十五日には、五月の光州暴乱を先頭で闘った人々へ、死刑五名、無期懲役七名という死刑・重刑判決が下された。私達は全力を尽くして、金大中氏ら韓国の民主化を闘った人々への全三機による投獄攻撃を阻止してゆかなければならぬと考える。

そして日本政府は、金大中氏らへの死刑・重刑判決に対して何らの具体的措置をとらなければならぬ。元首相福田、経団連の稲山の訪韓などを通過して、光州の血の上になされた全三機政権にテロ入りし続けている。それどころか、既に日韓両国政府により死刑執行の合意を降した上での対策づくりすら進みつつある。

日本の一九六〇年代以降の高度経済成長と「繁栄」を可能にしたのが、日本資本の韓国への経済侵略と収奪であったことを考えるならば、金大中氏らの問題を通過して韓国の歴史をどうとあらためるべきか、韓国民衆と共に生きる日本を創り出していかなければならぬ。

今秋にいたって、韓国では光州暴乱の二周年を受けついで、学生たちが再び闘いに立ち上がっている。十月、韓国神学生、延世大、高麗大、十一月成均館大とそして今もなお大起な続いている。闘いに立ち上がるものが、即逮捕、拷問、あるときは死へともなる中での英雄的な抗争である。

京大においては、五月の光州の闘い、あるいは八月に金大中氏らへの裁判が始まってから何もできていなかった。金大中氏らに対する最終審、死刑判決、執行が迫り、韓国の学生が、再び死を恐れない闘い始めの現在、私達は彼らに心で具体的な行動を始めねばならぬと考える。

私達は今、韓国民衆を踏み台にした「繁栄」の上にあぐらをかいて金大中氏への死刑を自殺にするのだから、それこそ、生を賭けて闘う韓国民衆と共に生きる道、金大中氏と共に生きる道を譲るのかわを問われている。オミニ者の道はない。「傍観」するとは必ずやわづらぐ殺す例に匹敵した。

「ひびきを届けて生きる」より「ひびきたまま死のつづき」という韓国民衆の声をまじい闘いに結び、12・5集会を契機に、断固とした意志表示、具体的には行動を共に開始し、このつづきはなにか。

12.5 金大中氏への死刑阻止全学集会

- ◇主催 金大中氏らを殺すな！光州を裁かせるな！緊急行動実行委員会
- ◇日時 十二月五日 正午
- ◇どこ 京大教養部正門前
- ◇賛同団体 原水爆禁止問題研究会、三里塚闘争委員会、三田ナイキ阻止京都行動委員会、狭山一ノ世を闘う会、反原発委員会、熊野闘争、11集会、代文契、学生友会、A自治会、B自治会、C自治会、D自治会、E自治会、F自治会、G自治会、H自治会、I自治会、J自治会、K自治会、L自治会、M自治会、N自治会、O自治会、P自治会、Q自治会、R自治会、S自治会、T自治会、U自治会、V自治会、W自治会、X自治会、Y自治会、Z自治会